



武庫のながれ

No. 9

2018年3月15日発行

武庫川づくりと流域連携を進める会

URL: <http://2011muko.jimdo.com/>



Assoc. for partnership in Muko River



武庫川講座Ⅲ座学



2月11日兵庫県立人と自然の博物館「共生のひろば」

川づくりリーダー養成武庫川講座Ⅲ 座学課程修了

—— 武庫川づくり実践講座から武庫川守へ

◇ 住民主体の武庫川づくりをリードする武庫川守をめざした3年に及ぶ講座の座学が修了

兵庫県立人と自然の博物館「共生のひろば」で名誉館長賞を受賞

—— 武庫川づくりと流域連携を進める会および武庫川講座Ⅲ受講者

◇ 武庫川講座座学修了発表が学術的かつ社会的に優れた発表である最高位の名誉館長賞を受賞

目次

トピック	川づくりリーダー養成武庫川講座Ⅲ 座学課程修了 ひとはく「共生のひろば」で武庫川講座が名誉館長賞を受賞	・・・表紙
[トピックニュース]	武庫川講座Ⅲ座学修了～武庫川づくり実践講座から武庫川守へ	・・・ 1
	武庫川づくりと流域連携を進める会・武庫川講座が名誉館長賞を受賞 ～住民主体の小さな武庫川づくりの実践にむけて	・・・ 2
[環境調査]	2017年秋期武庫川流域一斉水質調査	・・・ 4
[武庫川流域圏ネットワーク]	第7回武庫川流域圏ネットワーク活動報告会における結果概要	・・・ 5
[武庫川流域圏ネットニュース]	たからづか環境マイスターを授与	・・・ 6
[武庫川市民学会]	市民学会休会の報告と今後に向けて	・・・ 7
[武庫川ウォッチング]	Vol.22 冬の野鳥と海浜植物観察	・・・ 8
[武庫川守レポート 1]	武庫川本川下流域(1月25日)	・・・ 10
[武庫川守レポート 2]	武庫川流域全般(2月24日)	・・・ 11
平成29年度の活動記録 ・今後の予定		・・・ 13

[トピックニュース]

武庫川講座Ⅲ座学修了 ～武庫川づくり実践講座から武庫川守へ

平成29年6月から毎月第1土曜の夜間連続7回講座
さらら仁川3階シルバールーム

武庫川づくりと流域連携を進める会

理事長 佐々木 礼子

武庫川講座は、3年間の座学と1年間の川づくり実践によって、武庫川流域圏をさまざまな角度から理解し、川づくりに関する正しい基礎知識を習得し、川づくりのリーダーである武庫川守の養成を目指して開講してきました。1年目の武庫川講座Ⅰではシンクタンクである当会の会員が講師を務めて広く浅く武庫川づくりの基礎知識を学び、2年目の武庫川講座Ⅱでは川づくりの現場を指揮する河川管理者に講師になっていただくなど、さまざまなジャンルの講師をお招きしました。そして最終年度である武庫川講座Ⅲではさらにブラッシュアップして各ジャンルのスペシャリストを講師にお招きし、今年度で3年間の座学課程が無事修了しました。

座学修了時に受講者の方々には4つのグループに分かれていただき、修了研究発表と称してこれまで学んだ成果を活かした住民主体の武庫川づくりを実践する企画案を作成していただきました。次年度は、これらの案を実践し、形のある成果を川づくりで表現する経験をこなすことを目標にしています。1年間の川づくり実践修了後は、住民主体の武庫川づくりをリードする武庫川守(武庫川流域で発生するリアルタイムのさまざまな情報を収集し、流域環境を保全・再生しながら水害の危機を回避することにつながる活動を行う)となり、当会での活動を行なう、あるいは地元で支流を含む川づくりに挑み、連携していく川づくりのリーダーとして活躍することを期待しています。

【武庫川講座Ⅲ座学】

開講日時	内 容
①6月3日(土) 武庫川づくりと流域連携を進める会理事長 佐々木 礼子 当会理事長・京都大学安寧都市クリエータ	武庫川講座Ⅲ開講にむけて ◎ガイダンス(武庫川講座Ⅲ概要) ◎講座修了発表にむけたグループ結成・グループによるブレンストーミング テーマ： 小さな武庫川づくり実践にむけて 知っておきたい武庫川の特徴総集編
②7月1日(土) 滋賀県立大学准教授 瀧 健太郎	テーマ： 減災型治水の考え方 持続可能な流域社会の実現を目指して
③8月5日(土) 神戸大学名誉教授 室崎 益輝	テーマ： 巨大災害・温暖化による水害と地震・津波による多重災害 武庫川流域圏におけるリスク管理と危機管理～安全対策から避難 そして復興まで
④9月2日(土) 大阪府立大学教授 上 甫 木 昭 春	テーマ： 流域圏の地域性と治水文化・川を生活に生かした文化継承 武庫川が創出提供してきた既存の自然環境との共生と生物相を配慮 した環境再生の重要性
⑤10月7日(土) 神戸大学名誉教授 畑 武 志	テーマ： 武庫川流域圏における水田とため池 流域総合治水実践にむけて住民が主導権を握る流域対策～ため池と 田んぼの効果
⑥11月4日(土) ひとはく主任研究員・兵庫国立大学講師 三 橋 弘 宗	テーマ： 住民主体の小さな武庫川づくり実践 ワークショップによるとりまとめ・中間発表
⑦1月13日(土) ひとはく主任研究員・兵庫国立大学講師 三 橋 弘 宗	武庫川講座修了発表会 武庫川づくり実践にむけて

【武庫川講座Ⅲフィールド実習】

- ① 武庫川ウォッチング 主催「当会」
□7月23日 武庫川流域 榎野里山・たの池・生きもの観察会
□10月8日 「三田藍本～草野間の武庫川観察会」
□12月10日 「冬の野鳥と海浜植物観察会」
- ② みんなで取り組む武庫川づくり主催「兵庫県」
□10月28日 「下流仁川合流付近の生物観察とウナギの寝床(石倉)づくり」講師三橋弘宗氏…事務局体験参加
- ③ 武庫川河川清掃 主催武庫川流域圏ネットワーク
□5月28日・11月5日仁川合流付近清掃とオオキンケイギク駆除…事務局体験参加
- ④ 全国・武庫川流域一斉水質調査・武庫川流域特異点調査
□6月4日(日) 全25箇所 体験参加
□11月3日(日) 全23箇所 体験参加
□1月31日(水) 全4箇所水質調査機器使用方法見学

【これまでに開講された武庫川講座】

武庫川講座Ⅰ(座学) その他フィールド9回

講 師	内 容
当会理事長・京都大学安寧都市クリエータ 佐々木 礼子 氏	武庫川講座の概要 武庫川流域の魅力と自然環境～流域総合治水まで
武庫川市民学会事務局長 古武家 善成 氏	武庫川の流域水循環と水環境
関西学院大学教授 長 峯 純一 氏	武庫川の希少な環境特性と環境経済面での評価
ひとはく主任研究員、兵庫国立大学講師 三 橋 弘 宗 氏	生物多様性からシンボルフィッシュアユの遡上まで(午後フィールド学習)
武庫川流域圏ネットワーク代表 山 本 義 和 氏	武庫川清掃から下流の河川環境を考える
元武庫川流域委員会委員長 松 本 誠 氏	住民参画型の川づくりと流域総合治水

武庫川講座Ⅱ(座学) その他フィールド5回

講 師	内 容
兵庫国立大学名誉教授 小 林 文 夫 氏	武庫川中上流域視察バス講座(武庫川起点～草野～日出坂いぼ～豊～青野ダム～上流浄化センター～千羽ダム～有馬川合流～生瀬～宝塚)
当会理事長・京都大学安寧都市クリエータ 佐々木 礼子 氏	川づくりに参画するための基礎知識 河川名称と武庫川流域の特徴・魅力を知る、武庫川の河川環境と水循環
ひとはく主任研究員、兵庫国立大学講師 三 橋 弘 宗 氏	武庫川の特質を生かした生物環境とその再生 武庫川流域の生きものと川づくりの実践
兵庫国立大学名誉教授 小 林 文 夫 氏	武庫川流域における地質学的な基礎知識 河川争奪戦と曲から武庫川峡谷を中心に白亜紀から創られた武庫川流域の特質
兵庫県土整備部土木局武庫川総合治水室 前 田 直 昭 氏	武庫川の総合的な治水対策 治水対策の進捗状況と今後について
①武庫川流域委員会委員長松本誠氏/②武庫川流域圏ネットワーク代表山本義和氏/③事務局局長吉田博昭	他河川の川づくりと武庫川づくり ①千種川の清流づくりと武庫川づくり/②武庫川流域圏のネットワークと住民参加の武庫川づくり/③武庫川守の活動
兵庫国立大学名誉教授 服 部 保 氏	武庫川流域の森林 武庫川流域の植生の特徴



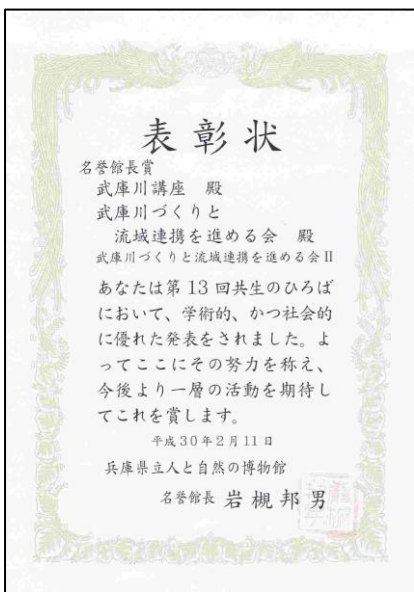
武庫川講座Ⅰ～Ⅲ

[トピックニュース]

武庫川づくりと流域連携を進める会・武庫川講座が名誉館長賞を受賞
— 住民主体の小さな武庫川づくりの実践にむけて

武庫川づくりと流域連携を進める会 理事長 佐々木 礼子

去る2月11日、兵庫県立人と自然の博物館で開催された「共生のひろば」において、武庫川づくりと流域連携を進める会は「武庫川の環境と武庫川守」をテーマに、武庫川講座受講者は修了研究発表のステージとしてジャンルに分かれ「住民主体の小さな武庫川づくり4つの取り組み実践」をテーマに企画案を研究発表しました。全87発表の中から、共に、学術的、かつ社会的に優れた発表をされたとのことで最高位であるといわれる名誉館長賞をいただきました。これをバネに、武庫川講座受講者をはじめ当会会員一同はより一層住民主体の武庫川づくりへの意欲を掻き立てることにつながることを期待しています。



住民主体の小さな武庫川づくり4つの取り組み

A grid of 12 informational panels detailing various initiatives for the Kikugawa River. The panels are titled as follows: 1. 武庫川流域の里地・里山の魅力発掘 (Discovering the charm of rural areas in the Kikugawa basin); 2. 「アユから見た、武庫川の生息環境の変化と教訓」 (Changes and lessons in the living environment of ayu seen from the river); 3. 水辺の小さな武庫川づくりの企画にむけて (Planning for small-scale Kikugawa river projects on the water's edge); 4. 有機肥料と化学肥料の役割 (The roles of organic and chemical fertilizers); 5. 水質の測定法 (Methods for measuring water quality); 6. 2. 課題 (Issues); 7. 武庫川にワカワカ (Making the Kikugawa river sparkle); 8. その1 農業と有機肥料 (Agriculture and organic fertilizer); 9. その2 有機肥料と化学肥料 (Organic and chemical fertilizers); 10. その3 水質測定法 (Water quality measurement); 11. その4 農業と有機肥料 (Agriculture and organic fertilizer); 12. その5 有機肥料と化学肥料 (Organic and chemical fertilizers). Each panel contains text, diagrams, and photos related to the specific topic.

[環境調査]

2017年秋期武庫川流域一斉水質調査・水辺のすこやかさ指標調査結果

古武家 善成

2017年秋期の武庫川流域一斉水質調査・水辺のすこやかさ指標調査を11月上旬に実施した。これまで同様、本川各地点の水質の経年変動（図1）と水辺のすこやかさ指標による評価結果（図2）を図で示す。

水質項目は、有機汚濁の程度を表すCODと、無機栄養塩の硝酸態窒素（NO₃-N）およびリン酸態リン（PO₄-P）である。CODの濃度レベルを比較すると、前回同様、三田大橋までの上流部と百間樋から下流部では概ね5mg/Lを中心に変動し、亀治橋から温泉橋までの中流部でそれ以上の高濃

度が出現している。栄養塩の経年変動にも同様の傾向が表れており、上流部および下流部では、概ねNO₃-Nは0.5mg/L以下、PO₄-Pは0.05mg/L以下であるが、大岩橋、温泉橋で高濃度の出現が顕著である。その要因として武庫川上流浄化センターの放流水の影響が推察されているが、浄化センターよりも上流の亀治橋においても時に高濃度ピークが検出されること

CODについては全ての地点で17年春期よりも濃度が減少しており、春期に高く秋期に低い濃度変動が再現されている。

すこやかさ指標に関しては、水環境が良好な地点が欠測のため、面積比比較図（図2右上）の地点分布は評価の低い側に集まっている。多くの地点で春期の評価結果と類似するため地点の黒丸は対角線近くに集まっているが、船坂橋（支川船坂川）が対角線から外れ春期に比べ評価を大きく低下させた。その原因については解析中である。

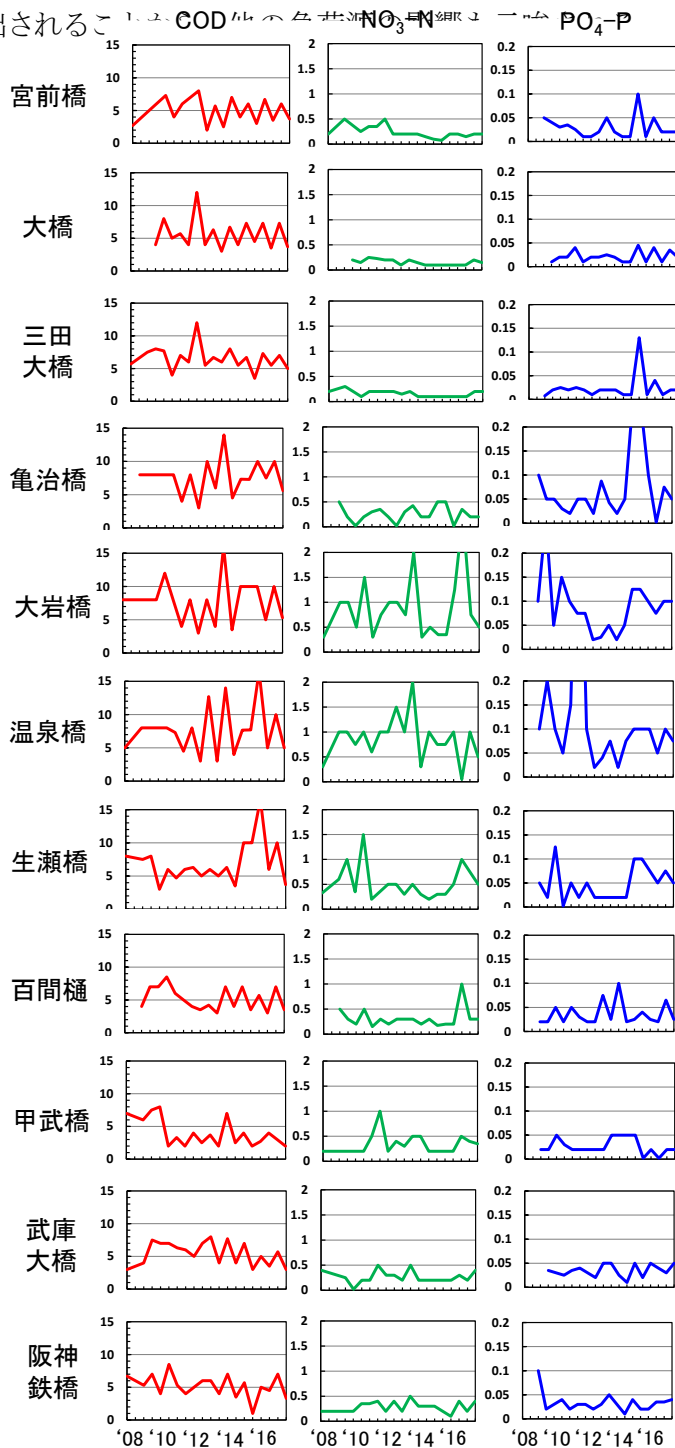


図1 武庫川本川地点における経年変動（～NOV '17）

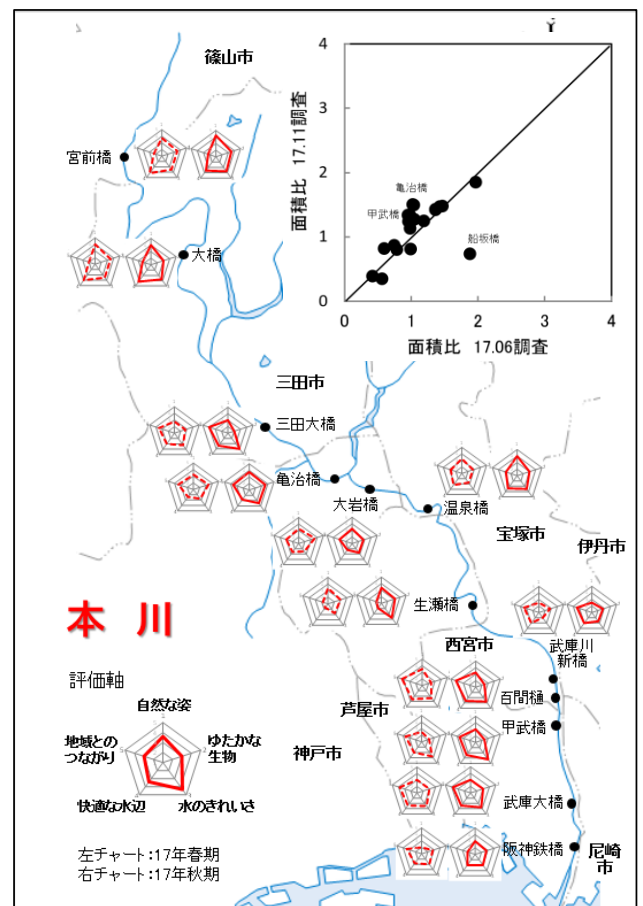


図2 すこやかさ指標による本川各地点の評価結果

[武庫川流域圏ネットワーク]

第7回 武庫川流域圏ネットワーク活動報告会における結果概要

武庫川流域圏ネットワーク 事務局長 白神 理平

平成29年12月2日(土) 13時~17時

会場：神戸女学院大学 ホルブルック記念館

■ 講演：

特別講演は矢持 進氏(大阪市立大学名誉教授)による「豊かで恵み多い都市の海づくり」。一般講演は、猪名川町の六瀬中学、宝塚市自然保護協会をはじめ下記の計8団体。



■ 展示：

兵庫県・西宮市・宝塚市・(株)ヤマサ環境をはじめ下記の計15のポスター展示

■ 概況：

約80名の皆さまにご参加いただきました。特別講演では、大阪湾の水環境の変遷と課題、浅場・干潟・湿地復元の試み、都市河川でのアユ復活プロジェクト、そして恵み多い海づくりの一環として行った閉鎖性人工水域でのマガキ養成試験などが紹介されました。沿岸域の水環境(貧酸素)の改善・食を起爆剤とした市民による豊かでにぎわいのある都市の海を提唱しておられる矢持先生は、永年の研究とフィールドでの実践の一端を熱く語って下さいました。



■ ポスター展示：

一般講演の1部と2部の間に、ポスター展示の見学時間を設けました。前回に続き、出展者による2分間スピーチ(自己紹介と展示説明)をお願いしました。交流の一助になったものと考えています。毎回お世話になっている神戸女学院のキャンパスは、まことに趣深く会場近くの大イチョウは今年も黄色の葉を残していました。(記録：事務局 白神)



■ 資料展示 ■ 団体名(講演)は、展示と講演を実施された団体

出展者	テーマ
①兵庫県 武庫川総合治水室(講演)	総合治水関連の資料
②西宮市 環境学習都市推進課	生物多様性にしのみや戦略
③宝塚市 環境政策課	環境都市・宝塚の推進への取り組み
④(株)ヤマサ環境エンジニアリング	地域環境活動・ECOリサイクル
⑤法西 浩(武庫流会)	秋、西宮北口津門川で観たアユ
⑥兵、川、山の自然たんけん隊	御前浜・香櫛園浜~危険な漂流物
⑦丸山湿原群保全の会	丸山湿原群の植物と保全活動
⑧宝塚中学校 科学部(講演)	科学部 活動報告2017
⑨21世紀の武庫川を考える会(講演)	ハイキング道一般開放1年の歩み
⑩武庫川の治水を考える連絡協議会	「武庫川レポート」
⑪武庫川づくりと流域連携を進める会(講演)	川づくりリーダー養成「武庫川講座」
⑫武庫川市民学会・武庫川ネット(講演)	武庫川に関するアンケート
⑬武庫川流域圏ネットワーク	2017年の活動紹介
⑭神戸女学院大学 総合文化学科(講演)	武庫川ネットを対象とした社会調査
⑮神戸女学院大学 地域創りリーダー	地域創りリーダー養成プログラム事例

神戸女学院 Web サイトから転載



キャンパスの四季



ホルブルック館

[武庫川流域圏ネットワーク ニュース]

宝塚市環境マイスターを授与

去る1月19日、宝塚ホテルにおいてたからづか環境マイスター認定証授与式が開催され、武庫川流域圏ネットワークの活動から、同団体の代表山本義和氏がたからづか環境マイスターを授与されました。

環境保全の大切さを伝える たからづか環境マイスター

宝塚市は、自然の素晴らしき、環境保全の大切さを伝えていくために、環境マイスター制度を、2016年度に発足。第1号として、足立勲（宝塚市自然保護協会）さんが認定された。

1月19日、第2回目のたからづか環境マイスター記念講演及び認定証授与式（宝塚市主催）が、宝塚ホテルで行われた。

開会挨拶の中で、影山修司宝塚市環境部長は、「マイスター（名人・師匠）の課題は、学習プログラムを作って、次代を担う人々を育てていくことにある」と述べた。

今回認定されたのは次の6名

①小川恭弘（宝塚エコーネット）さん。
②片山忠（宝塚野鳥の会）さん。宝塚ならびに近郊の山川で採鳥会を行っている。県外に足を延ばすこともあり、武庫川流域での調査活動やタカやヒヨドリなどの観察も。
③竹谷輝男（兵庫県地球温暖化防止活動推進員宝塚地区）さん。30年後には、地球の温度は2度上昇、子・孫のために対策が必要。活動としては、温暖化の現状（時間的・空間的広がり）と防止の啓発。
④土井喜夫（櫻守の会）さん。市内5カ所の森の整備。光合成がうまくいくようにと活動している。
⑤古沢啓一（新明和工業株式会社）さん。環境工学に基づいて、環境対策の研究を行っている。



認定された6名

認定された6名
①小川恭弘（宝塚エコーネット）さん。
②片山忠（宝塚野鳥の会）さん。宝塚ならびに近郊の山川で採鳥会を行っている。県外に足を延ばすこともあり、武庫川流域での調査活動やタカやヒヨドリなどの観察も。
③竹谷輝男（兵庫県地球温暖化防止活動推進員宝塚地区）さん。30年後には、地球の温度は2度上昇、子・孫のために対策が必要。活動としては、温暖化の現状（時間的・空間的広がり）と防止の啓発。
④土井喜夫（櫻守の会）さん。市内5カ所の森の整備。光合成がうまくいくようにと活動している。
⑤古沢啓一（新明和工業株式会社）さん。環境工学に基づいて、環境対策の研究を行っている。



意見交換会

現在、中瀬勲（兵庫県立人と自然の博物館館長）さんは、重要なキーワードは「里山と生物多様性と共生」と強調するとともに、「兵庫が、宝塚が好きになる子供を育てることが大事」と語った。そして、「21世紀の人間としてのライフスタイルは、科学技術万能主義から化学技術芸術の調和へ」と締めくくった。

認定授与式と意見交換会に先立つ、記念講演「宝塚の環境の魅力」を伝える続ける市民の心と未来の環境マイスターの種をまく」で、

水辺の清掃などの活動をしている。課題は世代交代。

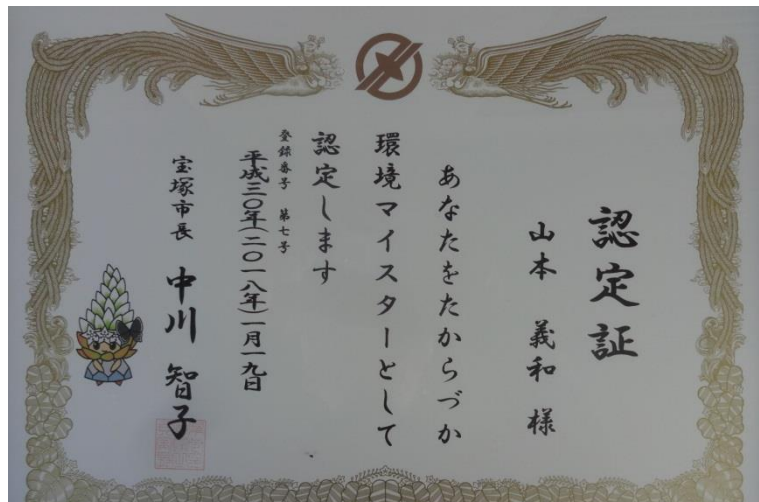
環境を守る」にアクセルをかける。現在は、「自然

現在、水辺の清掃などの活動をしている。課題は世代交代。



記念講演を聞く

「宝塚てくてく」平成30年2月号掲載記事



[武庫川市民学会]

市民学会休会の報告と今後に向けて



会長代行 長峯 純一

昨年11月の第6期目となる武庫川市民学会総会において、市民学会を2018年3月でいったん休会とすることが承認されました。この3月17日（土）に臨時総会を開き、休会に入るための手続きをとると同時に、武庫川市民学会のこれまでの活動の足跡をたどり、今後を展望する会を行いたいと思います。

武庫川市民学会は、故村岡会長の思いを受け、「武庫川流域圏ネットワーク」「武庫川づくりと流域連携を進める会」と連携を図りながら、武庫川3団体の一つとして、武庫川流域の環境改善を図るため、調査・研究という視点から武庫川に関心を持つ市民や研究者が集い交流する場を設け、武庫川に関連する情報・知見を共有し、それを記録に残し、次代に繋げていくことを目指してきました。

その活動の柱として、学会誌『武庫川の科学』の編集・発行、武庫川づくりフォーラムなどの講演会・研究発表会・セミナーの開催、武庫川の水質調査、そうした調査結果・研究活動の外部への情報発信を位置付けてきました。武庫川流域で活動する住民・市民団体との連携、河川および流域の環境の調査や改善に向けた啓発活動、河川計画の進捗状況に関する情報収集や政策に関する議論など、実践した活動は多岐にわたってきました。

しかしながら、時の経過と共に、武庫川3団体と活動内容が類似・重複してくる中で、メンバーの全体的な高齢化、活動への参加者の固定化、そして会員の減少が徐々に進行してきました。それに伴い、一部メンバーへの負担の増加と資金面での厳しさにも直面するようになりました。村岡会長が2015年10月に逝去されたことも、市民学会への求心力を弱めることになりました。市民学会をいかに維持していくかが、この間の課題になってきました。

武庫川3団体の関係や役割の見直しの議論もしましたが、結局、現状を打開するために武庫川市民学会を当面の間「休会」とするという選択に至りました。解散や廃止ではなく、あくまで休会です。将来、市民学会の活動再開を望む声が強まり、市民学会を運営する人員体制と財源が整えば、再開の可能性は残されています。

また、これまでの武庫川3団体が継続してきた活動の実態には、当面、大きな変化はないと考えます。市民学会がこれまで行ってきた講演会・研究発表会・セミナー・水質調査といった活動は、存続する武庫川2団体に代替あるいは吸収してもらうことになるでしょう。重複しているメンバーの負担や全体の事務作業が軽減され、武庫川2団体の活動がより充実・活性化することを期待したいと思います。武庫川の調査・研究に関する一定の情報や成果が集まれば、臨時的に市民学会誌『武庫川の科学』等の報告集を発行することも不可能ではないでしょう。

その意味では、武庫川市民学会は休会となりますが、存在はしておりますので、今後とも忘れずに支援してくださいよう、お願いいたします。

[武庫川ウォッチング]

Vol.22 冬の野鳥と海浜植物観察

平成29年12月10日(日)開催

講師 法西 浩

インストラクター 東山 直美、栗野 光一、吉田 博昭、木村 公之、佐々木 礼子

平成29年12月10日(日)晴、阪神甲子園西口9時30分集合。参加者12名(子ども0名)、ひょうごボランティアプラザから一名の女性が視察に参加された。

集合場所付近でかつてあった枝川堤防跡と残る松並木を視察したあと、甲子園浜に向かう(写真1)。

甲子園浜自然環境センターは工事中で3階の野鳥観察室からは、工事の金網越しに外を見ることになり、



写真1 甲子園駅から浜へ出発

観察が不十分なので、2階から浜の堤防の道路に出た。四阿(あずまや)で、冬鳥、海ガモ、陸ガモの種類、形態、生態を解説した。

甲子園浜は、野鳥保護区に指定されている。ユリカモメの群(写真2)をみるが、今年はカモ類は少ない。現れる冬種の冬鳥の話しながら、鳴尾浜に向かう。ここでカモの大群(写真3)に出会い、多くのカモ類を観察することができた。



写真2 甲子園で観たユリカモメの群れ



写真3 鳴尾浜で観たカモの群れ

ここを引き返し、甲子園浜の四阿に戻り、今まで観察した野鳥を観察リストにそって鳥合わせをした。観察できたのは36種で、平成27年の観察会と比較すると少し多かった。さらに、参加した一人の鳥の写真家が、ワシ、タカ2種類、ミサゴ(RD A)、そしてチョウゲンボウが浜に狩りに現れていたところの貴重な生態写真を修められていたことを後日報告された。ここで昼食。

午後からは、地元のNPO法人「浜の自然環境を守る会」の代表岸川由起子氏から、「浜ん婆(はまんばあ)」と自称される3名が当観察会に紹介され、その中の前代表である東山直美氏がインストラクターを担当された。

まずは、海浜の生物、保護植物、保護活動の実践についての話があった。

次に実習では、砂浜にタオルを広げて「タオルの上から手の平を砂に押さえなさい、チクツとするでしょう」「そこに小さな種が落ちているのがわかる?」「あったね、この小さなトゲが、ハマビシの種ですよ」と。参加者皆が実習し、種を拾った。波打ち際でカニを捕る。いろいろな生物を観る。

ここで観察できる植物は、まだ葉の残るハマヒルガオの他、枯れているハマビシの木、ギョウギシバ、コウボウシバ、コウボウムギ、ハマボウ、ハマゴウ、ハマボウフウ、“ハマ”のつく種、等々。ハマヒルガオの最盛期は5月中旬で、この頃にもう一度来られるのが一番だ、と語られた。

さらに西の今津港に向かう。ここからインストラクターは「浜・川・山の自然たんけん隊」の代表栗野光一氏が担当された。まず今津港の今津砲台跡の石碑と、今津灯台(写真4)を見学した。この灯台は別の場所に移設されるのか。ここは東南海・南海地震による津波対策のためのインフラ整備工事現場であることについて、栗野氏から詳しい話を聞いた。港にある新川と、東川



写真4 インフラ整備工事で移転される今津燈台

の既設水門のうち、新川水門を取り壊し、25年・30年程度の工程で、下流側(海岸側)へ新設統合水門にする
 とのことである。また、防潮堤の沈下対策(液状化対策)として、堤防下の水たたきも補修することになっている。
 このインフラ整備が完成すれば、堤内地の浸水面積が90%縮減できるという。

さらに今津浜へと移動し、栗野氏の話が続いた。栗野氏は今津浜のさらに西側に位置する御前浜(おまえは
 ま)で活動をされている。生物の保護活動、浜に打ち上げられたゴミの清掃、外来植物の駆除、地元の子ども
 たちとの自然観察会など、多くのパネルを使い、熱っぽく説明された。

終りは県下ではここしか残されていない希少植物「ハマエンドウ(RD Cラ
 ンク、写真5)」の観察と、保護活動の話である。写真5にみるように1株
 だけが深い緑で生き生きと広がっている。しかし、このインフラ整備工事で消
 滅する危険性がある。この1株はどうすればよいのか? 実は、単一クロー
 ンの1株なので、種子ができないとのことであった。今後の解決策を検討す
 べきである。



写真5 今津港岸に生息する希少種ハマエンドウ

ここから阪神今津駅に向かい解散した。この日は、冬鳥の観察、海浜植物の保護活動の話、今津港での津波
 対策のインフラ整備工事現場の見学など、実に3回分の自然観察会にも該当する意義深いものであった。時期
 的に参加者が少なかったのが唯一残念である。

武庫川づくりと流域連携を進める会は、これからも「NPO 法人海浜の自然環境を守る会」「浜・川・山の自然
 たんけん隊」とも連携を密にして活動することが約束されている。

甲子園浜探鳥表(2017. 12. 10)

種目	科	No	名称	特徴	マーク	種目	科	No	名称	特徴	マーク
カモ目	カモ科	1	オカヨシガモ	冬鳥	○	チドリ目	シギ科	49	ユリカモメ	冬鳥	○
		2	ヨシガモ	冬鳥	○			50	ウミネコ	留鳥	○
		3	ヒドリガモ	冬鳥	○			51	カモメ	冬鳥	○
		4	カルガモ	留鳥	○			52	セグロカモメ	冬鳥	○
		5	マガモ	冬鳥	○			53	コアジサシ	夏鳥	○
		6	ハシビロガモ	冬鳥	○			54	アジサシ	旅鳥	○
		7	オナガガモ	冬鳥	○			55	ミサゴ	留鳥	○
		8	シマアジ	旅鳥	○			56	トビ	留鳥	○
		9	トモエガモ	冬鳥	○			57	カワセミ	留鳥	○
		10	コガモ	冬鳥	○			58	チョウゲンボウ	冬鳥	○
		11	ホシハジロ	冬鳥	○			59	ハヤブサ	留鳥	○
		12	キンクロハジロ	冬鳥	○			60	モズ	留鳥	○
		13	スズガモ	冬鳥	○			61	ハシボソガラス	留鳥	○
		14	ビロードキンクロ	冬鳥	○			62	ハシブトガラス	留鳥	○
		15	ホオジロガモ	冬鳥	○			63	シジュウカラ	冬鳥	○
		16	ウミアイサ	冬鳥	○			64	ヒバリ	留鳥	○
		カイツブリ目	カイツブリ科	17	カイツブリ			留鳥	○	65	ツバメ
18	カンムリカイツブリ			冬鳥	○	66	ヒヨドリ	留鳥	○		
ハト目	ハト科	19	ハジロカイツブリ	冬鳥	○	67	ウグイス	留鳥	○		
		20	キジハト	留鳥	○	68	メジロ	留鳥	○		
カツオドリ目	ウ科	21	ドバト	留鳥	○	69	ムクドリ	留鳥	○		
		22	カワウ	留鳥	○	70	ツグミ	冬鳥	○		
ペリカン目	サギ科	23	ササゴイ	留鳥	○	71	ジョウビトキ	冬鳥	○		
		24	アマサギ	夏鳥	○	72	インビヨドリ	留鳥	○		
		25	アオサギ	留鳥	○	73	スズメ	留鳥	○		
		26	ダイサギ	留鳥	○	74	キセキレイ	留鳥	○		
		27	チュウサギ	夏鳥	○	75	ハクセキレイ	留鳥	○		
		28	コサギ	冬鳥	○	76	セグロセキレイ	留鳥	○		
		29	オオバン	留鳥	○	77	タヒバリ	冬鳥	○		
ツル目	クイナ科	30	ムナグロ	旅鳥	○	78	カワラヒワ	留鳥	○		
		31	ダイゼン	旅・冬	○	79	シメ	冬鳥	○		
		32	コチドリ	夏鳥	○	80	イカル	留鳥	○		
		33	シロチドリ	留鳥	○	81					
		34	メダイチドリ	旅鳥	○	82					
		35	ミヤコドリ	旅・冬	○	83					
		36	オソリハシシギ	旅鳥	○	84					
		37	チュウシャクシギ	旅鳥	○	85					
		38	ホウロクシギ	旅鳥	○	86					
		39	アオアシシギ	旅鳥	○	87					
チドリ目	シギ科	40	キアシシギ	旅鳥	○	88					
		41	ソリハシシギ	旅鳥	○	89					
		42	イソシギ	留鳥	○	90					
		43	キョウジョシギ	旅鳥	○	91					
		44	オバシギ	旅鳥	○	92					
		45	ミュビシギ	旅鳥	○	93					
		46	トウネン	旅鳥	○	94					
		47	サルハマシギ	旅鳥	○	95					
		48	ハマシギ	旅・冬	○	96					

〈参考文献〉

- ・兵庫の貴重な自然—兵庫県報レットデータブック 2003 (財)ひょうご環境創造協会

[武庫川守レポート 1] 武庫川本川下流域(平成30年1月25日) 武庫川づくりと流域連携を進める会 吉田 博昭



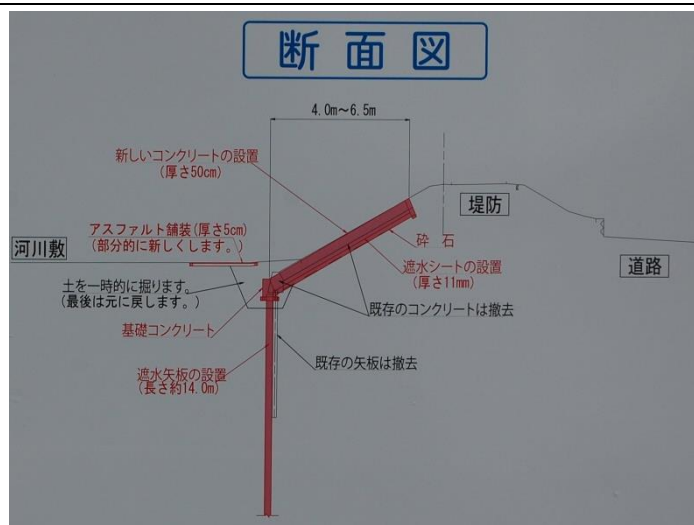
塩水浸透対策 (引き抜かれた旧矢板)



巧みに松を避けて打ち込まれた矢板

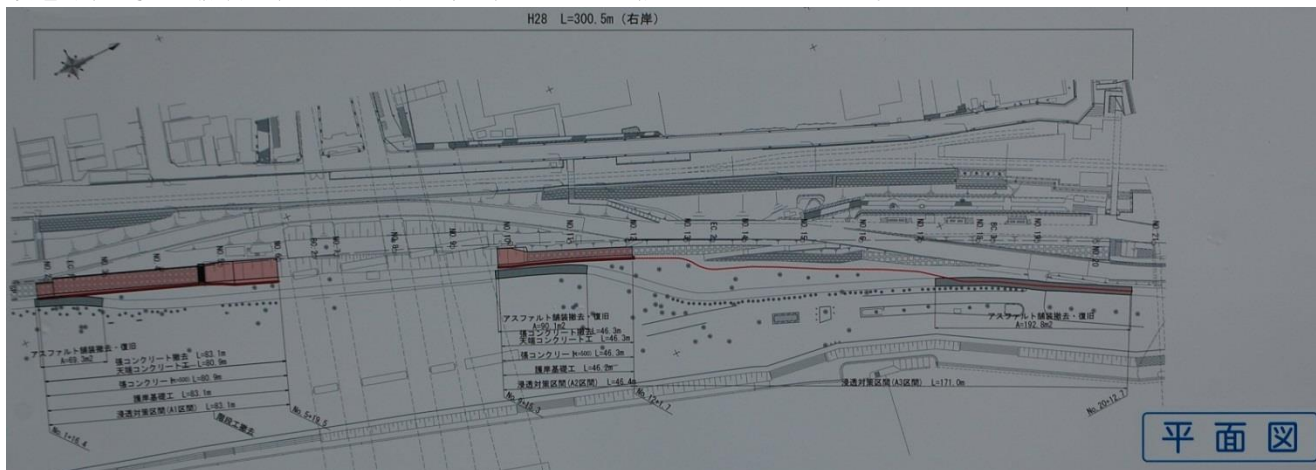


43号線橋梁下で継ぎ矢板打ち工法が採用されていた。



既存矢板を引き抜いた後に長尺矢板が打ち込まれる。

塩水浸透対策工事図 (黒点は松の位置で、巧みに松を避けて矢板打ちが行われている。)



43号線下流から阪神橋梁下流付近まで塩水浸透対策として長い矢板が打ち込まれている。巧みに松を避けて矢板打ちが行われているが、松の根本近くに打ち込まれるところもあり、長期的には松への影響は避けられないだろう。かつて年輪調査したデータから、この付近の松は樹齢50~80年程度と推定出来る。生きものである以上寿命もあり、摂津名所図絵にも載る武庫川の象徴的な景観の保全は武庫川づくりの一環であり、今期の工事で降も計画的な保全の取組みが求められる。

左岸の大庄西町工区では低水路護岸の矢板打ち工事が進んでおり、工事の障害になる低水路護岸沿いに繁茂していた、アキニレ・センダンなどの雑木が伐採されて河原が明るくなった。護岸沿いの雑木は非常に成長が早いようで数年で人の背丈を超えるようになり、野鳥には格好の棲みかであるが、成長し過ぎると流下障害になったり、川の中に生えた樹木にゴミが引っ掛かり景観も悪くなる。武庫川の景観に配慮した樹木管理を河川施設の維持管理事業として取り組むべきだろうと思う。拡幅工事で景観が変化するが、長期的な観点に立って、あるべき景観を話合うべきである。

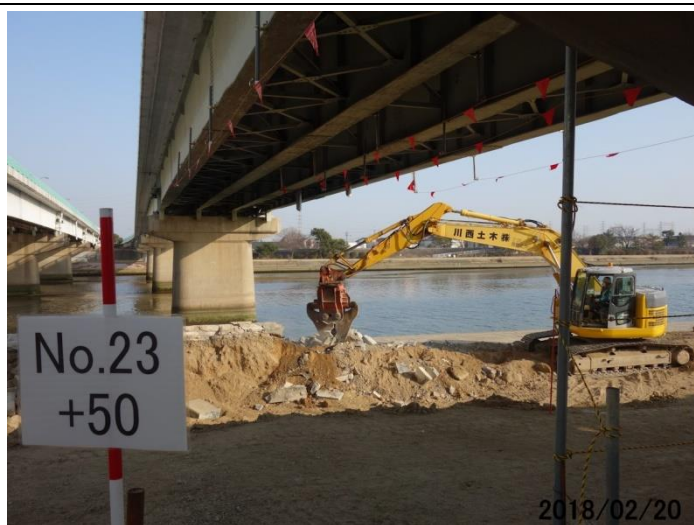
[武庫川守レポート 2] 武庫川流域全般(平成 30 年 2 月 24 日) 武庫川づくりと流域連携を進める会 吉田 博昭



43 号線下流側 塩水浸透対策旧矢板打ち+堤防強化工事



43 号線上流側 塩水浸透対策旧矢板打ち+堤防強化工事

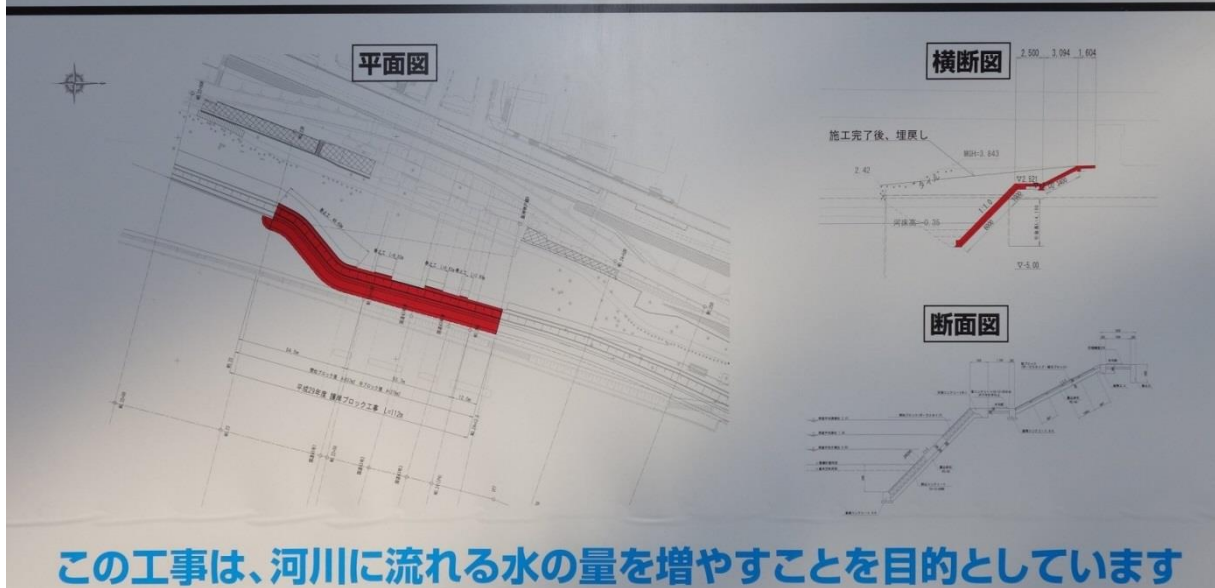


43 号線橋梁付近で護岸ブロック破碎撤去の様子



43 号線上流側から見た護岸ブロック破碎撤去の様子

(二)武庫川水系 武庫川 護岸ブロック工事(武庫川町工区)



この工事は、河川に流れる水の量を増やすことを目的としています

河口から拡幅されてきた延長線上の拡幅工事が始まった。工事図面を見ると、赤色部分の高水敷が掘削し護岸ブロック工事後埋め戻されるようである。一時的に埋め戻し止り堰まで延長後に掘削拡幅されると推測出来る。工事後の景観は大幅に変わるだろう。



道場水標付近で河床掘削工事中（JR車中から撮影）



今津水門の杭打ち工事。軟弱地盤で短時間で入っていく



仁川・小仁川合流点の改修状況 雑木全部伐採された。



甲子園浜で草が焼かれた。原因不明



7号堰下流の堆積土砂浚渫工事が始まった



7号堰浚渫工事前の堆積状況

河口部では、拡幅関連工事が潮止め堰付近まで進んできた。堤防強化・塩水対策工事も潮止め堰より上流部まで進み潮止め堰撤去、河床掘削へ進んでいくものと思われる。工事の進捗と同時に川沿いの雑木が伐採され殺風景な景観になってきた。

43号線橋梁付近では微妙に松を避けて塩水対策工事が行われたが、今後進められるであろう、拡幅・護岸ブロック工事では高水敷が狭くなり、今ある松は精一杯保護に努められるだろうか、高水敷の形状が変われば景観も大きく変わる。時の流れとともに変わる以前の景観も忘れられ、摂津名所図絵に描かれていた景観も過去のものになるだろう。

道場の新名神橋梁付近では、昨年引き続き河床岩盤掘削工事が行われ、仁川と小仁川の合流点でも改修工事が行われ、河床に敷き詰められた石は素人目ではあるが流紋岩のようで道場で掘削された岩石が使われているように見える。もし、その通りなら掘削岩石の有効活用になり良いことである。7号堰下流浚渫工事で発生する土砂も何処かで有効利用されることを期待したい。今津水門工事も順調に進捗している。杭は簡単に入っていく軟弱地盤のようで大変な工事のように見える。甲子園浜では何故か草が焼けただけだ。もうすぐ一斉に草が芽吹き綺麗になるだろう。

平成29年度の活動記録・今後の予定

今後の詳細日程については武庫流会ホームページ参照

企 画 調 査	11月10日(金)	「武庫川づくり懇談会」 兵庫県職員会館 206号会議室 3団体・武庫川総合治水室
	6月4日(日)	全国および春期武庫川流域一斉水質調査
	11月3日(祝)	秋期武庫川流域一斉水質調査
武庫川観察会	7月23日(日)	Vol.20 武庫川ウォッチング～「相野の里山・ため池・生きもの観察会」
	10月8日(日)	Vol.21 武庫川ウォッチング～「三田市藍本～草野間の武庫川観察会」
	12月10日(日)	Vol.22 武庫川ウォッチング～「冬の野鳥と海浜植物観察会」
発 表 ・ 参 加	9月3日(日)	兵庫県阪神北地域見本市「きらっと☆阪神北オータムフェスタ2017」
	12月27日(水)	ひょうご環境担い手サミット デザインクリエイティブセンター
	2月11日(日)	「共生のひろば」兵庫県立人と自然の博物館
	3月1日(木)	ひょうごボランティア基金助成事業報告会 神戸クリスタルタワー
武庫川講座Ⅲ 敬称略 座 学 さらら仁川 シルバールーム 18:50～	6月3日(土)	武庫川講座Ⅲ 開講 小さな武庫川づくり実践にむけて 武庫流会理事長 佐々木礼子
	7月1日(土)	減災型治水の考え方～持続可能な流域社会の実現を目指して 滋賀県立大学准教授 瀧 健太郎
	8月5日(土)	巨大災害・温暖化による水害と地震・津波による多重災害 神戸大学名誉教授 室崎 益輝
	9月2日(土)	流域圏の地域性と治水文化・川を生活に生かした文化継承 大阪府立大学教授 上甫木 昭春
	10月7日(土)	武庫川流域圏における水田とため池 神戸大学名誉教授 畑 武志
	11月4日(土)	住民主体の小さな武庫川づくり実践 兵庫県立人と自然の博物館主任研究員 三橋 弘宗
	1月13日(土)	武庫川づくり実践にむけて・修了発表会 兵庫県立人と自然の博物館主任研究員 三橋 弘宗
	2月3日(土)	修了発表課題研修会 武庫流会理事長 佐々木礼子
	3月5日(月)	武庫川づくり実践～バス視察講座 兵庫県立人と自然の博物館主任研究員 三橋 弘宗
	2団体企画行事 武庫川流域圏ネットワーク・ 武庫川市民学会	4月22日(土)
5月20日(土)		第7回武庫川流域圏ネットワーク総会・記念講演会 神戸女学院大学
5月28日(日)		第17回 武庫川河川敷お掃除会 武庫川流域圏ネットワーク
11月5日(日)		第18回 武庫川河川敷お掃除会 武庫川流域圏ネットワーク
11月11日(土)		武庫川市民学会 第6期総会・講演会 関西学院大学上ヶ原
12月2日(土)		第7回 活動報告会 武庫川流域圏ネットワーク
フィールド参加行事	10月28日(土)	みんなで取り組む武庫川づくり 兵庫県 仁川合流付近
	3月17日(土)	武庫川市民学会 第6期臨時総会 関西学院大学上ヶ原
今 後 の 予 定	4月15日(日)	Vol.23 武庫川ウォッチング～武庫川づくり実践講座1アユの遡上観察とテナガエビ釣り
	5月19日(土)	第8回武庫川流域圏ネットワーク総会・記念講演会 神戸女学院大学
	5月27日(日)	第20回 武庫川河川敷お掃除会 武庫川流域圏ネットワーク
	6月3日(日)	全国および春期武庫川流域一斉水質調査
	7月14日(土)	武庫川づくり実践講座2～武庫川でテナガエビを釣ろう ひとはく・人と自然の会
	7月29日(日)	武庫川づくり実践講座3～小さな武庫川づくり実践・アユの土用隠れ調査
	8月4日(土)	武庫川づくり実践講座4～アユの遡上に関する武庫川一斉水温調査
	10月中旬	武庫川づくり実践講座5～武庫川上流の有機農家を訪ねて
	10月28日(日)	第21回 武庫川河川敷お掃除会 武庫川流域圏ネットワーク
	11月3日(祝)	秋期武庫川流域一斉水質調査
	11月上旬	武庫川づくり実践講座6～武庫川の魅力発見 武庫川峡谷廃線敷き紅葉ハイク
	12月8日(土)	第8回 活動報告会 武庫川流域圏ネットワーク

武庫川流域圏ニュース「武庫のながれ」 No.9

2018年3月15日発行(創刊2014年2月)

編集・発行

武庫川づくりと流域連携を進める会(武庫流会)

〒665-0061 宝塚市清荒神2丁目19-16(楠IDP内)

Tel: 0797-81-2782

090-2289-2649 (事務局長吉田)

Fax: 0797-51-1043

E-mail: yoshidahr@nifty.com

partnershipinmukoriver@gmail.com

URL: http://2011muko.jimdo.com/

発行責任者 理事長 佐々木礼子



当紙は「武庫川づくり」関連3団体(武庫川流域圏ネットワーク・武庫川市民学会・武庫川づくりと流域連携を進める会)からの流域圏情報発信ニュースレターです。